

平均	四〇歲—四四歲		三五歲—三九歲		三〇歲—三四歲		二五歲—二九歲		二〇歲—二四歲		一五歲—一九歲		一〇歲—一四歲		五歲—九歲	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
八八	七八	九五	二二	二六	二七	二九	三〇	三三	三六	三九	四二	四八	五三	五七	六二	六六
五七	六三	六五	三三	三九	四〇	四二	四三	四四	四五	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一
七五	七六	七九	二五	二六	二七	二七	二八	二八	二九	二九	三〇	三〇	三一	三一	三一	三一
一四	一七	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
五五	五五	五八	四二	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三
五五	五五	五八	四二	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一一	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

平均	〇歲—四歲		總數		總數	流行病及傳染病	全身病	神經系及感覺器病	血行器病	呼吸器病	消化器病	泌尿生殖器病	皮膚及皮下組織病	動骨及病	其他
	女	男	平均	數											
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
三三	三五	三〇	三四	三五	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
四四	四四	四五	四八	四八	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

□ 年齡別疾病 (百分比)

計	八五歲—		八〇歲—八四歲		七五歲—七九歲		七〇歲—七四歲	
	女	男	女	男	女	男	女	男
〇	八	二	三	四	六	二	三	三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

四五歳—四九歳	平均	女	男	四五歳—四九歳	平均	女	男	四五歳—四九歳	平均	女	男
100.0	6.8	5.6	100.0	100.0	6.8	5.6	100.0	100.0	6.8	5.6	
四五歳—四九歳	平均	女	男	四五歳—四九歳	平均	女	男	四五歳—四九歳	平均	女	男
100.0	6.8	5.6	100.0	100.0	6.8	5.6	100.0	100.0	6.8	5.6	
五〇歳—五四歳	平均	女	男	五〇歳—五四歳	平均	女	男	五〇歳—五四歳	平均	女	男
100.0	6.2	6.3	100.0	100.0	6.2	6.3	100.0	100.0	6.2	6.3	
五〇歳—五四歳	平均	女	男	五〇歳—五四歳	平均	女	男	五〇歳—五四歳	平均	女	男
100.0	6.2	6.3	100.0	100.0	6.2	6.3	100.0	100.0	6.2	6.3	
五五歳—五九歳	平均	女	男	五五歳—五九歳	平均	女	男	五五歳—五九歳	平均	女	男
100.0	7.1	5.8	100.0	100.0	7.1	5.8	100.0	100.0	7.1	5.8	
五五歳—五九歳	平均	女	男	五五歳—五九歳	平均	女	男	五五歳—五九歳	平均	女	男
100.0	7.1	5.8	100.0	100.0	7.1	5.8	100.0	100.0	7.1	5.8	
六〇歳—六四歳	平均	女	男	六〇歳—六四歳	平均	女	男	六〇歳—六四歳	平均	女	男
100.0	7.6	6.6	100.0	100.0	7.6	6.6	100.0	100.0	7.6	6.6	
六〇歳—六四歳	平均	女	男	六〇歳—六四歳	平均	女	男	六〇歳—六四歳	平均	女	男
100.0	7.6	6.6	100.0	100.0	7.6	6.6	100.0	100.0	7.6	6.6	
六五歳—六九歳	平均	女	男	六五歳—六九歳	平均	女	男	六五歳—六九歳	平均	女	男
100.0	7.2	5.2	100.0	100.0	7.2	5.2	100.0	100.0	7.2	5.2	
六五歳—六九歳	平均	女	男	六五歳—六九歳	平均	女	男	六五歳—六九歳	平均	女	男
100.0	7.2	5.2	100.0	100.0	7.2	5.2	100.0	100.0	7.2	5.2	
七〇歳—七四歳	平均	女	男	七〇歳—七四歳	平均	女	男	七〇歳—七四歳	平均	女	男
100.0	7.7	6.7	100.0	100.0	7.7	6.7	100.0	100.0	7.7	6.7	
七〇歳—七四歳	平均	女	男	七〇歳—七四歳	平均	女	男	七〇歳—七四歳	平均	女	男
100.0	7.7	6.7	100.0	100.0	7.7	6.7	100.0	100.0	7.7	6.7	
七五歳—七九歳	平均	女	男	七五歳—七九歳	平均	女	男	七五歳—七九歳	平均	女	男
100.0	7.9	7.1	100.0	100.0	7.9	7.1	100.0	100.0	7.9	7.1	
七五歳—七九歳	平均	女	男	七五歳—七九歳	平均	女	男	七五歳—七九歳	平均	女	男
100.0	7.9	7.1	100.0	100.0	7.9	7.1	100.0	100.0	7.9	7.1	
八〇歳—八四歳	平均	女	男	八〇歳—八四歳	平均	女	男	八〇歳—八四歳	平均	女	男
100.0	8.1	7.1	100.0	100.0	8.1	7.1	100.0	100.0	8.1	7.1	

而して疾病大分類にては、餘りに概括的であるから、その實相を觀察するに恰も隔靴搔痒の感があるから、聊か病名(小分類)に分ちて筆を染めて見よう。

### 1 脾腫

八五歳—	平均	女	男
100.0	100.0	100.0	100.0

病類細別に分ちて之を觀察するに、第一位に多数なるは脾臓肥大である。検査人員總數七七〇一人中一二、四〇二人を算し、其の割合は調査人員の一割六分強を占めてゐる。又總疾病の四割五分に當り、奈何に本病の多き歟に寧ろ一驚を喫せざるを得ない。島民夥多の有病率を全身病とするは實は本病者を包含するからである。元來本病は單獨に發生する場合もあり、熱性病に伴ふ場合ありと雖も、本島に於てはマラリア病に伴ふのであると見るべきを妥當とする。即ち過去に於てマラリアに罹りたる者か、或は現在も同原蟲を保有し居るものである。

脾腫患者と診定したるは、左恠肋下に於て觸知し得たる腫大者である。

### イ 體性別

脾腫總數は一二四〇二人にして内男七三一三人、女五〇八九人で、女百につき男百四十四であるから、従つてマラリアの罹患歩合も男に多数であると謂ふ、一斑が窺知せられる。

### ロ 地方別

最も濃厚なるは臺南州にして總疾病の七七八%に當る、臺東廳の五九七%之に亞いて高い或はマ

ラリア流行地の反證とすることが出来よう。而かも如上一州一廳のみに限り全島平均位(四五%)以上である。寡少なるは澎湖廳にして、高雄州之に屬する。左に脾腫患者の體性及地方別を表章せむ。

□脾腫患者

種別	實數		疾病總數		人口千につき	
	男	女	男	女	男	女
全島	3,133	2,098	1,101	1,030	1,912	1,310
臺北州	1,171	818	414	394	2,121	1,310
新竹州	3,041	2,151	1,101	1,051	2,101	1,601
臺中州	1,761	1,211	611	561	2,101	1,501
臺南州	3,761	2,711	1,211	1,161	2,101	1,601
高雄州	1,171	811	411	361	2,101	1,501
臺東廳	1,171	811	411	361	2,101	1,501
花蓮港廳	1,171	811	411	361	2,101	1,501
澎湖廳	1,171	811	411	361	2,101	1,501

八年齡別

脾腫患者一二、四〇二人の年齢を五歳階級に分つときは十歳以上十四歳級に於て最多を示し、二〇二六人即ち各年齢級患者の割合は一六三%ある……本年齡級患者の一割六分強は脾腫である……之に亞いて最高年齢の前後各五歳級は多數に屬する。寡少なるは五十歳以上の中老級及び高老級である。就中最低なるは五十五歳以上五十九歳級である。

〔年齢と體性關係〕十歳未滿は女を高率とし、十歳以上十五歳未滿は男女相伯仲し、十五歳以上三

十五歳未滿者は一轉して男を高率とする、而して三十五歳以上にありては再轉してまた女を多數としてゐる。

年令別脾腫患者を男女に區分し表章すると、次の如くである。

□年齢別脾腫

年齢	實數		計數		各年齢級各性百中の割合	
	男	女	男	女	男	女
總數	3,133	2,098	3,133	2,098	100.0	100.0
〇歳—四歳	101	81	182	162	5.8	7.7
五歳—九歳	211	161	372	281	11.9	13.4
一〇歳—一四歳	311	211	522	381	16.7	18.2
一五歳—一九歳	411	311	722	521	23.0	24.7
二〇歳—二四歳	511	411	922	681	29.4	32.5
二五歳—二九歳	611	511	1,122	811	35.8	38.7
三〇歳—三四歳	711	611	1,322	911	42.2	43.4
三五歳—三九歳	811	711	1,522	1,011	48.6	48.2
四〇歳—四四歳	911	811	1,722	1,111	54.9	53.0
四五歳—四九歳	1,011	911	1,922	1,211	61.3	57.7
五〇歳—五四歳	1,111	1,011	2,122	1,311	67.7	62.5
五五歳—五九歳	1,211	1,111	2,322	1,411	74.1	67.3
六〇歳—	1,311	1,211	2,522	1,511	80.5	72.1

2 マラリア(間歇熱、瘧疾、寒熱病)

島民間に於ける有病率の最高なるは脾腫肥大にして、マラリアは次位である、本調査身體検査當

日にあつてマラリア患者の重症者又は高熱發作中の者は、その検査を延期するの止むなき状態にあるを以て、従つて本病の絶対數を知ることが出來ぬ場合が多い。かつ本病は間歇的であるから尙更ら總數を掴みにくい、尤も本病は採血後の檢鏡で原蟲の有無に依つて決定したものであるから、先づ絶対數と見て差支ないのである。

疾病中最多の脾腫は嘗てマラリアに惱まされたる者であるが、現在に在りては原蟲の寄生なく、唯生理的機能に變化を呈するに止まりて、別段に疾患と認むる程度に非ざる者あるは明である。さすれば本病は第二位の高率ではあるが、實は本島不健康地區の冠たるものと見做すべきものである。元來本期間の保健調査地域は、一般に衛生状態の不良地を擇んで施行した結果であり、また不健康地帯なるものは多くはマラリア猖獗地であつた。特にある州廳にありてはもとくマラリア濃厚地として、制遏上の見地から緊要であつたからこの調査を實施した箇所もあつたのである。

マラリア患者は脾腫の約五分の一で、總患者の約一割九五%を占めてゐる。であるから本病を脾腫とを合一するときは總患の半數以上に達する譯である。また見方に依りてはマラリアの分量的考察としては、この二疾病を渾一することが正當かも知れない。

今、マラリア漸減の状況を死亡統計に徴して觀察するに、改隸當時の事實は姑く措き、明治三十五年頃には各年一萬三四千人の死亡ありて總死亡の一割八分を占めたのであつたが、大正の初年頃には一割が死亡總數中での歩合となつた。超へて昭和元年には六分強に激減し、最近同三年には總死亡の四六%に遞下したのである。こは善處した衛生施設と、民衆衛生觀念の向上に外ならざる次第である。然れども一度眼を轉じて本島の不健康地に於ける本病の推移を見ると、未だ島民病の隨

一として暴威を逞ふして居る。この實狀を見るときには一層防遏の緊張を痛感せざるを得ない。更に本病と脾腫との相關々係を最近の事實である、昭和三年の死亡統計に依據して推考すると、マラリアは四三四人で脾腫は僅かに五九人の死者に過ぎない。便ち疾病統計よりの觀測とは全く交互顛倒の狀勢である。マラリア死者は脾腫死者の七十四倍に該つてゐる。由是觀之れば脾腫は直接に死の原因となることが尠いことが分かる。又本調査に於て現在マラリア原蟲を保有する者で脾腫を認められた者が相當の數に上つてゐたが、それ等の記述とマラリア原蟲の種別に關するものは、本篇では割愛することとした。

イ 體 性 別

本病者を男女に分けると男一三七七人、女一二二四人で男が高い、しかし比率に於ては女が高いと謂ふ現象を呈した。即ち總患中各性の割合は男八七%、女一〇四%であるから、女の高度は一七%である。之は疾病總數に於て男は著しく女より多數であるからである。

〔死因マラリアと體性〕最近三箇年間に於ける、マラリア死亡を瞥見すると病體と同軌である、即ち實數では男を多數とするが、人口も亦男が多數である結果、その比率から觀察するときは、男は女よりも低率となる譯である。

最近三箇年間のマラリア死亡の事實を掲ぐれば次表の如くである。

口體性別マラリア死亡 (本島人)

昭和三年	男 二一九五	女 二〇五六	總死亡百中
	實數		
	男 四・五	女 四・七	

昭和二年

二、五五一

二、四〇二

五・二

五・六

地方別

マラリアの分布は、地理的關係とアノフェレス蚊族とに基因することが甚大である。本調査の成績に依れば最多は臺南州で總患の一割五分を占めてゐる、高雄州は之に亞ぎ一割二分を有する、臺中州は一割強である。要するに本病は中南部に浸淫を呈してゐる。臺東廳の百分比に上らざるは血を略したるに基因してゐるものである。之は脾腫患者の比較的多數であることに徴しても、本病の猖獗なるを裏書するものであると謂ひ得る、たゞ該廳調査期が偶然本病の少閉期に入りたること一面發作中の者は檢診を一時延期したからで決して同患者の少數なるものではあるまい。

〔マラリアと脾腫〕 疾病界の双壁と目すべきマラリア、脾腫の二症とも、全島平均位以上にあるは臺南州のみである、而してマラリアの平均位を超過するは臺中、高雄の兩州に限られてゐる。又脾腫の水平線を凌駕するは臺東廳のみである。而して兩症は不可分の關係にあるものとせば、如上平均位以上を保持する地方は、孰れもマラリア地帯と見て差支あるまい。

次にマラリア患者の地方及び體性別總患の割合を掲ぐれば次表の如くである。

□地方、體性に分ちたるマラリア患者

實數	全島		新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺東廳	花蓮港廳	澎湖廳
	男	女							
計	1,377	1,131	8	331	525	1,007	1,007	1,007	1,007
男	717	590	4	171	265	507	507	507	507
女	660	541	4	160	260	499	500	500	500

八年齡別

本病は〇歳より二十歳間の幼少年級を蝨蝕してゐる悪病である。就中生後五歳未滿者を最とする、即ち各年齡級各性の比率を覓れば二七六の示してゐる。五歳を長すれば各歳級漸を趁ふて遞減してゐる。

□年齡級別マラリア患者

年齡級	實數	總患百中	前年の減率よ	年齡級	實數	總患百中	前年の減率よ
〇歳—四歳	717	27.6	—	〇歳—三歳	1,018	4.2	〇.3
五歳—九歳	534	20.5	7.1	三歳—四歳	955	3.7	〇.5
一〇歳—一四歳	393	15.1	5.4	四歳—五歳	79	〇.3	〇.7
一五歳—一九歳	265	10.2	4.9	五歳—六歳	61	〇.2	〇.7
二〇歳—二四歳	139	5.3	4.9	六歳—七歳	37	〇.1	〇.7
二五歳—二九歳	16	0.6	0.8	七歳—八歳	23	〇.1	〇.9
				八歳—九歳	3	〇.0	〇.5

上表を綜覽すると、五歳に至れば頗に激減する。こは兒童期に入り羸弱者は既に夭折し、比較的健體剛質者が殘存したからである。更に二十歳に達すると尙ほ一段に疾病率が劇減する。要するに本病原蟲保有者は多く幼少年級に斃れ、二十歳を超えて著減するは弱質者は自然的淘汰された後で

あるからである。

更に最近昭和三年の死亡統計に於ける、年齢級別に徴すると、

○年齢別マラリア死亡 (各歳級死者百中の割合)

年齢	男		女		平均	年齢	男		女		平均
	男	女	男	女			男	女	男	女	
0歳	1.7	2.0	1.8	2.5	2.1	0歳	1.0	7.1	8.8	2.0	
1歳	2.7	3.6	3.2	3.0	3.1	1歳	6.7	7.4	7.0		
2歳	4.4	5.2	4.9	3.5	4.0	2歳	7.6	7.8	7.7		
3歳	7.2	6.3	6.8	4.0	5.5	3歳	6.2	5.7	6.0		
4歳	7.8	8.7	8.3	4.5	5.6	4歳	5.2	5.4	5.3		
5歳	2.5	3.2	2.8	5.0	3.8	5歳	5.5	5.7	5.6		
平均	3.4	4.1	3.7	4.5	4.0	6歳	4.8	5.0	4.9		
6歳	1.9	1.8	1.9	6.0	3.9	7歳	4.0	4.8	4.4		
7歳	1.3	1.0	1.2	6.5	3.8	8歳	3.4	4.0	3.7		
8歳	1.0	0.9	1.0	6.9	3.7	9歳	2.4	3.4	2.9		
9歳	0.6	0.7	0.7	7.0	3.6	10歳	2.3	2.1	2.2		

上表を通観すると、五歳迄はマラリアを死因としたものは豫想外に低い、併しながら本病を死の遠因とした者の夥多なることは疾病率に依りて推察することが出来る、又五歳以上二十歳未満者にマラリア死亡の高さと、二十歳を經過すれば頓に減少する事實も略ぼ疾病率と同揆であることが明かる。

〔體性との考察〕○歳乃至十歳未満は脾腫患者と同じく女に高率…この十年間の疾病比は男四四・八一%、女五一・八%…であるが十歳以上二十歳未満は男反つて高率である。二十五歳未満は反撥して

女また男を凌いでゐる、二十五歳以上は一般罹患率と揆を同ふして女甚しく男に比べて激減してゐる。

□體性、年齢別マラリア罹患率

年齢	男		女		平均	年齢	男		女		平均
	男	女	男	女			男	女	男	女	
0歳	3.5	3.3	3.6	2.5	3.0	0歳	2.5	2.6	2.9	2.7	
1歳	2.6	2.4	2.7	1.9	2.2	1歳	1.9	1.8	1.8	2.2	
2歳	1.5	1.6	1.6	1.1	1.3	2歳	1.5	1.3	1.4	1.4	
3歳	0.9	0.9	0.9	0.7	0.8	3歳	1.1	1.0	1.0	1.1	
4歳	0.8	0.8	0.8	0.5	0.6	4歳	0.8	0.7	0.7	0.8	
5歳	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	5歳	0.7	0.6	0.6	0.7	
6歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	6歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
7歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	7歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
8歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	8歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
9歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	9歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
10歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	10歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
11歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	11歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
12歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	12歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
13歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	13歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
14歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	14歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
15歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	15歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
16歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	16歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
17歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	17歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
18歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	18歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
19歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	19歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
20歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	20歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
21歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	21歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
22歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	22歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
23歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	23歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
24歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	24歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
25歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	25歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
26歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	26歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
27歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	27歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
28歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	28歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
29歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	29歳	0.6	0.5	0.5	0.6	
30歳	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	30歳	0.6	0.5	0.5	0.6	

3 貧血

貧血なる病名では、その病因の那邊にあるやを知り難いのである、即ち急性貧血なるや、或は白血病其の他の貧血なるか、不明である。尤も保健調査のように多衆の住民に對して檢診を行使する場合には、貧血の因由まで調査し得ないのである。而しながら衛生状態の不良なる部落にありては、

恐らく寄生蟲病特に十二指腸蟲に因るものと、マラリアに由るものと、多數であることは想像し得らる。原因の歸屬は孰れにあるも、全島著患中の第三位を占め、而かも本島として聯想せらる、マラリアに伍し、僅かに一%の低下に在る疾患なれば、本病の検討は等閑に付ることが出來ぬ。就中臺中州の如きは脾腫に亞ぐの多數であつて、遙にマラリアに倍加してゐる。但し貧血の多數なるは、臺中州に多數である結果であつて全島の著患ではない。故に地方別三大疾患中に本病を認めたるのは全く臺中州に限られてゐるのである。

本疾病に關する地方及び體性別統計を、次に掲出して本項を結ぶこととする。

□ 體性別貧血 (實數及び總患百中の割合)

%	實數		%	實數	
	女	男		女	男
平均	八五	八七	二二	一〇三	一三三
全島	八五	八七	二二	一〇三	一三三
臺北州	〇三	〇五	二	一	二
新竹州	〇三	〇五	二	一	二
臺中州	二六	二四	一三	一〇六	一〇三
臺南州	〇三	〇三	二	一	一
高雄州	〇三	〇七	二	一	五
臺東廳	〇三	〇三	二	一	一
花蓮港廳	〇三	〇三	二	一	一
澎湖廳	〇三	〇三	二	一	一

4 甲狀腺腫

本病は本島地方病の一にして、從來は山村部落特に蕃地に多數である關係から、高地に於ける特殊疾病だと謂はれてゐた。本調査の成績に依れば本病は山脚地方に限らず、平地農村にも相當潜在

してゐることが明つた……一例を挙げれば新竹州下公館庄の類……而して本腺の肥大なるものにあつては、兒頭大のものがある。

イ 體性別

甲狀腺腫患者九六一人を男女に分けると男五五人、女九〇六人を算し、女は男の約十七倍で法外に女の多い疾患である。本病源に關しては種々の學說あれども、未だ定説あるを聽かないのである。

ロ 地方別

本病は澎湖廳を除き各州廳に蔓延してゐる、就中花蓮港廳の總疾病の二八四%を首とする、新竹州の同割合一〇五%、臺東廳の八三%、臺北州の五九%等之に屬する、而して以上二州二廳を全島平均位三三五%以上とする、臺南、高雄の兩州は一%に達せぬ。臺北州と高雄州の男には本病を認めなかつた、臺東廳女の全島に冠絶したる實數を示したるは一異彩である。その詳細は次表の如くである。

□ 地方、體性別甲狀腺腫患者

實數	總患百中の割合		平均	數	
	女	男		女	男
全島	九〇六	五五	三三五	七七	二二
臺北州	一	二	二五	一	一
新竹州	一	二	二五	一	一
臺中州	一〇六	一〇三	二六	二四	二
臺南州	一	一	〇三	〇三	〇
高雄州	一	五	〇七	〇	〇
臺東廳	一三	一	一三	一〇六	八
花蓮港廳	二五	一	二六	二六	一
澎湖廳	一	一	〇三	〇三	〇

八年齡別

本病は年齢の長するに伴ひ、正比して患者が遞増する、特に女に於ける傾向が顯著である。即ち總患の割合を算出すると五歳未満は一%に達せぬが、二十歳に至れば一〇%に上り、更に四十五歳を超ゆると一二%に昂つてゐる。六十歳以上の生存者でも九四%の本病者が包有せられてゐる。其の詳細は次表に委する。

□年齢別甲状腺腫患者 (各年齢級各性百中の割合)

年齢級	實數		計	比		平均
	男	女		男	女	
〇歳	—	—	—	—	—	—
一歳	—	—	—	—	—	—
二歳	—	—	—	—	—	—
三歳	—	—	—	—	—	—
四歳	—	—	—	—	—	—
五歳	—	—	—	—	—	—
六歳	—	—	—	—	—	—
七歳	—	—	—	—	—	—
八歳	—	—	—	—	—	—
九歳	—	—	—	—	—	—
十歳	—	—	—	—	—	—
十一歳	—	—	—	—	—	—
十二歳	—	—	—	—	—	—
十三歳	—	—	—	—	—	—
十四歳	—	—	—	—	—	—
十五歳	—	—	—	—	—	—
十六歳	—	—	—	—	—	—
十七歳	—	—	—	—	—	—
十八歳	—	—	—	—	—	—
十九歳	—	—	—	—	—	—
二十歳	—	—	—	—	—	—
二十歳以上	—	—	—	—	—	—

5 肺結核

人體を解剖して見ると、大人の八〇%は多少結核の變象を有すと謂はれてゐるほど、重大なる國民病の巨擘である。然れども結核と診定せらるゝは其の何分一にして、症候の發現せられざる中に治癒してゐるのである。而かも本島に於ては死因の第三位に在りて、逐歲増加の傾向があるから焦慮に堪ゐざるものがある。

我が保健調査の成績に依れば検査人員の二八%に當つてゐる、而して本篇の結果は各州最初の開闢期であるので、咯痰検鏡を省いた箇所などもあり、従つて低率を呈したものであると見られるのである。

總疾患中の割合は男女共に總疾患の〇八%であるが、實數では女九〇人は男二二二人の四分の三に該たる。

地理的關係から觀察すると、花蓮港廳最多八一%を占め、島都を包擁する臺北州は五二%で第二位である、寡少なるは臺南州、臺東廳の各〇一%である。

慢性傳染病であるから患者は幼年者には比較的低い、かつ五歳未満は一%に達せぬ、三十歳以上になると一〇%を超えて居る、而かも女に高率を露してゐる。

〔肺結核患者の全島一齊調査…昭和三年の事實〕客年當課に於て調査した、本病の成績を左に摘載して見よう…大體の歸嚮は本調査の成績と同軌であるが罹患率は一齊調査の方が高い、而し本調査六回以降の分を編整して比較したら、却つて高くなるかも知れぬ。

い 總患

昭和三年中に醫師の治療を受けた、本島人肺結核患者總數は無慮二六七三九人を算し、内官立醫



院の診療に依るもの五一八人、公醫の診療に依るもの四一四八人、其の他一般開業醫の診療に依るものは二二〇六三人である。かく官立醫院に通院する者の少きは全島僅かに十三醫院であるからである。又一一般開業醫に集中するは數に於て夥多なるを、一面地方民に本病の比較的多きを物語るものであらう。

今肺結核患者を本島人の人口四〇九二一七人、昭和二年末現在に對比すると千人につき六七人に該る。即ち本島人百四十九人毎に一人の患者を有する割合である。

從來、本病の調査は官立醫院と公醫の診療に因るもの、外は、凡て警察調査であつたから、正確を缺くばかりでなく、甚しく實際と懸隔ある過少を示した經驗から、本回は之を改めて一般開業醫の診療簿に就て調査すること、したのである。

本島人が官立醫院、公醫、一般開業醫の診療に依る肺結核患者を、地方體性別に表章すると次表の如くである。

□官立醫院、公醫及び一般開業醫に依る肺結核患者 (本島人)

種別	男	女	計
臺北醫院	三十四	一一六	一五〇
基隆醫院	九	一一	二〇
宜蘭醫院	一五五	六七	二二二
花蓮醫院	一六七	一〇一	二六八
臺中醫院	一八七	一〇三	二九〇
嘉義醫院	二二二	一三三	三四五
臺南醫院	二二二	一三三	三四五
高雄醫院	二二二	一三三	三四五
屏東醫院	二二二	一三三	三四五
花蓮醫院	二二二	一三三	三四五
台東醫院	二二二	一三三	三四五
澎湖醫院	二二二	一三三	三四五
金門醫院	二二二	一三三	三四五
計	二,二二二	一,三三三	三,五五五

種別	男	女	計
新竹醫院	一一七	四	一二一
新竹醫院	一一七	四	一二一
臺中醫院	二二二	一三三	三四五
臺中醫院	二二二	一三三	三四五
嘉義醫院	二二二	一三三	三四五
嘉義醫院	二二二	一三三	三四五
臺南醫院	二二二	一三三	三四五
臺南醫院	二二二	一三三	三四五
高雄醫院	二二二	一三三	三四五
高雄醫院	二二二	一三三	三四五
屏東醫院	二二二	一三三	三四五
屏東醫院	二二二	一三三	三四五
花蓮醫院	二二二	一三三	三四五
花蓮醫院	二二二	一三三	三四五
台東醫院	二二二	一三三	三四五
台東醫院	二二二	一三三	三四五
澎湖醫院	二二二	一三三	三四五
澎湖醫院	二二二	一三三	三四五
金門醫院	二二二	一三三	三四五
金門醫院	二二二	一三三	三四五
計	二,二二二	一,三三三	三,五五五

澎湖		澎湖	
公	公	公	公
開	開	開	開
計	計	計	計
二二	二二	二二	二二
六九	六九	六九	六九
一一三	一一三	一一三	一一三
三三三	三三三	三三三	三三三
二、六一〇	二、六一〇	二、六一〇	二、六一〇
一三、三四六	一三、三四六	一三、三四六	一三、三四六
一六、三二九	一六、三二九	一六、三二九	一六、三二九
九	九	九	九
二八	二八	二八	二八
三七	三七	三七	三七
一四五	一四五	一四五	一四五
一、五三八	一、五三八	一、五三八	一、五三八
八、七二七	八、七二七	八、七二七	八、七二七
一〇、四〇〇	一〇、四〇〇	一〇、四〇〇	一〇、四〇〇
二二	二二	二二	二二
三〇	三〇	三〇	三〇
九七	九七	九七	九七
一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
五二八	五二八	五二八	五二八
四、四八	四、四八	四、四八	四、四八
二二、〇六三	二二、〇六三	二二、〇六三	二二、〇六三
二六、七二九	二六、七二九	二六、七二九	二六、七二九

肺結核患者の比較的寡少なる観あるは、醫師の診療を受くるものが比較的稀であるからである。即ち本民族性の信念から未だ僻地鄙村民は疾病は凡て神佛の祟りであるとなし、廟宇に詣て祈禱占卜に日も足らず本復を結願する、遂に重症に陥り愕きて醫師の門に来るのであるが、それは多くは危篤に頻してからである。

更に觀察の眼を轉して、疾病の總勘定ともトすべき死亡統計を一瞥すると、昭和二年中に肺結核で死亡した本島人は六、二五四人であるから、同人口千中一人六分を示してゐる。

で、本病の患者と死者との釣合を吟味すると、昭和二年中の死亡は前述の如く六、二五四人で、一日平均十七人に當り、之を總患者二六、七二九人に對する比率を覓むると二割三分の死亡割合となつて、本病は國民病として最も懼るべきものとはいへ、本島の結核は餘りに経過が不良すぎる。即ちこの割合で推すときは同患者五人弱毎に一人宛死亡することになるから、精細に調査を進めたら本病の患者は尙ほ多數に上ることは想像に難くない。

る 體性と肺結核

肺結核患者は男女孰れを高率なりとするや、之を男女各性の人口千に對比すると、男は八〇人、女は五八人で三と二の比で男は遙に高い。

患者	現住人口	人口千につき
男 一六、三二九	二、〇四四、三二七	八〇〇
女 一〇、四〇〇	一、九六四、八九〇	五二八
計 二六、七二九	四、〇〇九、二一七	六六七

更に肺患死亡に徴すると男三、九〇九人、女は二、三四五人で、約八と五の割合であるから、大體患者の傾向と同型を呈してゐる。

は 州廳と肺結核

この調査は前叙のやうに、一般開業醫の診療簿に據つたので、醫院所在地を基礎とした關係から、幾分他管の居住者が包含せられてゐるが、夫れは交互に來往するから、大數上よりの觀察には差したる影響はまづないと思ふ。

肺結核患者の分布状態を觀るに、全島平均位六七七をより高率なるは臺南州の一〇・一%を最とし、之に亞ぐは高雄(八二%)臺中(七六%)の兩州である。即ち中南部地方が濃厚に瀰蔓してゐるのである。臺北州三八%は臺中州に亞いて高率であるが、其の比率には逕庭があつて恰度半數に過ぎぬ。又全島平均に較べると二九%低い。最低なるは臺東廳で最高臺南州の十分の一、平均の七分の一に當り其の比率は一〇%である。亞いで新竹州の一九%之に屬する。但し臺東廳の過少なるは衛生機關の關係と、居住者の多衆は平地蕃人であるからで、事實低位のものであるまい。保健調査の成績に依れば「ピウマ」、「パイワン」兩族の約八割は醫療を受けざるに徴して證左とすることが出来る。

地方別肺患比率

地方	肺患	現住人口	人口千中
臺北	三、四五八	七五九、〇〇七	三・八
新竹	一、一五九	六二二、四三九	一・九
臺中	六、八四一	九〇一、三二〇	七・六
臺南	一〇、五六八	一、〇四七、七六六	一〇・二
高雄	四、三五三	五二六、六八八	八・二
高雄	三五	四〇、〇〇七	一・〇
高雄	一六六	五二、四四五	三・二
高雄	一五〇	五九、五五五	二・五
高雄	二六、七二九	四、〇〇九、二一七	六・七

に總括

島民の肺結核罹患率は六七%で、其の死亡率は一五%を示し、かつ死因としては肺炎、腸炎に亞いで第三位を占め、地方病の隨一たるマラリアを後に瞻若せしめ、更に逐年増加の推移にあるは、眞に寒心すべきことである。

本病の豫防制遏に關しては忽諸に附すべからざる、當面の大問題と謂はなければならぬ。而かも療養の資なき者に對しては、國費治療を擴大するの要あるは否むことが出來ぬ。

由來一國の政治は國民の安寧福祉の増進にあるのである、一國の多福安康は國民の健康長壽の向上に外ならないのである、國民の健全保持は治病と國家衛生の完整に俟たなければならぬ。

6 花柳病

本調査の成績をもつて花柳病の絶對數を卜知することは出來ない、何となれば望診的檢診にして局部的診定でないからである、而し本病の大勢を窺知することが出來よう。又死亡統計を引照しても本病の實際を推知することが出來ぬ、之は直接に死因となり得れども、本病に因をなして餘病を惹起せしむるからである。要するに本病者は本調査の數字に幾倍かを乘じたる積でなければならぬ、而して暖國の本病は悪性度が強いと謂はれて居る。かつ本島には相當に蔓延してゐる模様に見うけられる。

イ 體性別

花柳病總數はマラリアの五分の一で肺結核に倍遜し四九四人を示してゐる、之を男女に分けると男三八六人、女は一〇八人である。總患の割合は一八%にして内男二五%、女〇九%である。

ロ 地方別

本病は臺中州を最多とし、總患の三〇%に當る。新竹州二四%臺東廳二二%之に屬する、臺南州は寡少で百分比に上らない。而して臺東廳の女は男を凌駕し、花蓮港廳には男の本病者が無い。

ハ 年齢別

年齢より見たる花柳病は二十五歳以上三十歳未満級に最多一八%を示し、男は二二%の高率である、女は男より長けて三十歳以上四十歳未満の十年間最高位で一四%である。概して男は三十五歳未満に多く罹患し、女は全く之に反してゐる。而して乳幼兒級に於て本病を認むるは遺傳性微毒である。

次に年齢別に表章したる、男性、女性の罹病率を掲ぐれば、次の如くである。

口體性年齢別花柳病患者

年齢	實数		計	人口		平均
	男	女		男	女	
0歳	7	1	8	1	1	0.00
1歳	1	0	1	0	0	0.00
2歳	1	0	1	0	0	0.00
3歳	2	0	2	0	0	0.00
4歳	3	0	3	0	0	0.00
5歳	4	0	4	0	0	0.00
6歳	5	0	5	0	0	0.00
7歳	9	0	9	0	0	0.00
8歳	15	0	15	0	0	0.00
9歳	25	0	25	0	0	0.00
10歳	35	0	35	0	0	0.00
11歳	45	0	45	0	0	0.00
12歳	55	0	55	0	0	0.00
13歳	65	0	65	0	0	0.00
14歳	75	0	75	0	0	0.00
15歳	85	0	85	0	0	0.00
16歳	95	0	95	0	0	0.00
17歳	105	0	105	0	0	0.00
18歳	115	0	115	0	0	0.00
19歳	125	0	125	0	0	0.00
20歳	135	0	135	0	0	0.00
21歳	145	0	145	0	0	0.00
22歳	155	0	155	0	0	0.00
23歳	165	0	165	0	0	0.00
24歳	175	0	175	0	0	0.00
25歳	185	0	185	0	0	0.00
26歳	195	0	195	0	0	0.00
27歳	205	0	205	0	0	0.00
28歳	215	0	215	0	0	0.00
29歳	225	0	225	0	0	0.00
30歳	235	0	235	0	0	0.00
31歳	245	0	245	0	0	0.00
32歳	255	0	255	0	0	0.00
33歳	265	0	265	0	0	0.00
34歳	275	0	275	0	0	0.00
35歳	285	0	285	0	0	0.00
36歳	295	0	295	0	0	0.00
37歳	305	0	305	0	0	0.00
38歳	315	0	315	0	0	0.00
39歳	325	0	325	0	0	0.00
40歳	335	0	335	0	0	0.00
41歳	345	0	345	0	0	0.00
42歳	355	0	355	0	0	0.00
43歳	365	0	365	0	0	0.00
44歳	375	0	375	0	0	0.00
45歳	385	0	385	0	0	0.00
46歳	395	0	395	0	0	0.00
47歳	405	0	405	0	0	0.00
48歳	415	0	415	0	0	0.00
49歳	425	0	425	0	0	0.00
50歳	435	0	435	0	0	0.00

7 其の他の疾病

以上略説したる病名の外、總疾病の一〇%以上及び五%以上を占むる病名に區分すると、甲は七種、乙は十種に上つてゐる。今その病名を比率の順位に列記すると、次の如くである。

- 甲 一〇%以上を占むる病名
  - イ 癩 風 四一・七%
  - ロ 急性氣管支炎 三五・六%
- 乙 五%以上を占むる病名
  - ハ 爾他の眼疾 一八・四%
  - ニ 肝臓肥大 一六・五%

- ホ 淋巴腺炎 一四・六%
- ヘ 疥 癬 一二・八%
- ト 其の他の皮膚病 一〇・〇%

如上七種中、皮膚病は三種を算へ、六四・五%に達してゐる。本島に皮膚病の多きは第一不潔に源泉を發すれども、亦風土氣候に因由するは雲烟過眼することが出來ぬ。則ち暑熱に狂れるも發汗の多きと、入浴の習慣なきと、氣温の激變等は一般に皮膚炎症を起し易い。かつ汚水を使用する結果、之に刺戟されて皮膚病を招來する傾向がある。

勿論國民性として入浴を極度に嫌厭すれども、都市に居住する者は、遞次浴湯に親しむ風あるは慶に堪えない。

急性氣管支炎の多數なるは、對寒の抵抗力弱きに依るもの、如きも、また氣象關係と防寒の設備の完からざるがため克く感冒に胃され、惹えて本病に轉化する傾向があるらしい。

- 乙 五%以上を占むる病名
  - イ 白 癬 九・九%
  - ロ 結 膜 炎 九・八%
  - ハ 爾他の血行器の疾患 九・五%
  - ニ 營養の疾患 八・二%
  - ホ 腺 病 質 八・二%
- ヘ 其の他の胃病
  - ト 濕 疹 七・七%
  - チ 喘 息 六・八%
  - リ 感 胃 六・八%
  - ヌ 胃加答兒 六・一%

如上五%の疾患を觀るに、大體一〇%以上の疾病のように皮膚病や感冒が多い。特に胃腸の疾患の多きは、本島は暑熱期長く、従つて飲用水を多分に使用すること、食物の新鮮ならざる腐敗し

易いことも一因である。

丙 一般疾病

先きに略述したる疾病ありて、多少重複する嫌あれども、全疾病の實數、疾病率の割合人口千に  
つき、總疾病千中の割合及び其の順位を表章して本項を結ぶこととする。

□ 疾病率及總疾患千中の割合

病名	實數	疾病率(人口千に付)	總疾病千中	順位
總患者	二七,四九四	三五七・〇一	一,〇〇〇・〇〇	
I 流行病、地方病及傳染病	三,四一八	四四・三八	一一四・三二	
1 マラリア	二,六〇一	三三・七七	九四・五七	二
2 麻疹	二二	〇・三〇	〇・八四	五一
3 百日咳	四	〇・〇五	〇・一五	九六
4 癩	一五	〇・一九	〇・五五	六三
5 肺ダストマ	二五	〇・三二	〇・九一	四九
6 肝ダストマ	二	〇・二七	〇・七六	五三
7 二口蟲病	四	〇・〇五	〇・一五	九七
8 肺結核	二二	二・七五	七・七一	一九
9 (ホツトリス) 脊推カリエス	八	〇・一〇	〇・二九	七六
10 喉頭結核	一	〇・〇一	〇・〇四	一三五
11 結核性淋巴腺腫	二	〇・〇三	〇・〇七	一三八
12 腸結核	一	〇・〇一	〇・〇四	一三七
13 腹膜結核	一	〇・〇一	〇・〇四	一三七

病名	實數	疾病率(人口千に付)	總疾病千中	順位
II 全	一六,二〇〇	二二〇・三六	五八・九二	一四〇
20 花柳病	一	〇・〇一	〇・〇四	一四〇
19 淋病	一五二	一・九七	五・五三	二五
18 梅毒	八二	一・〇六	二・九八	二九
17 微毒	二六〇	三・三八	九・四六	一四
16 其の他の結核	三	〇・〇四	〇・一一	一〇七
15 皮膚結核	一	〇・〇一	〇・〇四	一三八
14 皮膚結核	一	〇・〇一	〇・〇四	一三八
21 胃腸病	二	〇・〇三	〇・〇七	一一九
22 乳癌	一	〇・〇一	〇・〇四	一四一
23 瘰癧	一三	〇・一七	〇・四七	六八
24 脚氣	四	〇・〇五	〇・一五	九八
25 貧血	二,三四九	三〇・五〇	八五・四四	三
26 パセド氏病	三	〇・〇四	〇・一一	一〇八
27 甲状腺腫	九六一	一二・四八	三四・九五	六
28 脂肪過多	一,四〇二	一六・〇四	四五・〇六	一
29 營養の疾患	一三	〇・一七	〇・四七	六九
30 營養の疾患	二二四	二・九一	八・一五	一六
31 加答兒性黃疸	一	〇・〇一	〇・〇四	一四二
32 發育不全	三	〇・〇四	〇・一一	一〇九
33 腺病	二三四	二・九一	八・一五	一六
34 神經系及感覺器の疾患	一,四〇七	一八・二七	五一・一七	一
III 膜炎	一	〇・〇一	〇・〇四	一四三

IV																					
70	78	77	76	75	74	73	73	血	71	70	69	68	67	66	65	64	63	61	60	59	58
淋	橫	痔	靜	動	心	僧	心	行	其	重	耳	外	中	爾	視	斜	睫	白	葡	膜	虹
巴			脈	脈	感	帽	臟	器	の	の	の	の	の	の	力	毛	内	内	葡	漏	彩
腺					不	全	の	の	疾	疾	聽	漏	炎	炎	疾	碍	視	障	障	腫	眼
炎	症	疾	瘤	瘤	病	塞	病	患	疾	聽	漏	炎	炎	疾	碍	視	障	障	腫	眼	炎

四〇二 一 二 二 一 二 二 七三五 六八 二 一五 五 二七 五〇五 一三二 九 二九 一 二〇 一 一 三

五〇二 〇〇一 〇〇三 〇〇三 〇〇一 〇二七 〇二二 〇三五 九・五四 〇八八 〇〇三 〇一九 〇〇六 〇三五 六・五六 一・七一 〇二二 〇三八 〇〇一 〇二六 〇〇一 〇〇一 〇〇四

一四・六二 〇〇四 〇〇七 〇〇七 〇〇四 〇七六 〇六五 〇九八 二六・七三 二・四七 〇〇七 〇五五 〇一八 〇九八 一八・四一 四・八〇 〇三三 一〇五 〇〇四 〇七三 〇〇四 〇〇四 〇〇一

一五二 一六 一五 一五 五四 六〇 四七 三四 二四 六四 八七 四六 二六 七三 四三 一五〇 五八 一四九 一四八 一一二

57	56	55	54	53	52	51	50	40	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35
角	角	角	角	角	結	眼	眼	爾	神	神	顔	震	白	脚	卒	腦	癩	精	扇	脊	脊	脊
膜	膜	膜	膜	膜	膜	膜	膜	他の	經	經	面	頭		水	充		神	頭	後	前	隨	隨
濁	膜	膜	質	質	質	質	質	の	衰	衰	經	經	痲	痲	痲	痲	痲	痲	痲	痲	痲	痲
濁	膜	質	質	質	質	質	質	疾	弱	弱	痛	痲	痲	痲	痲	痲	痲	痲	痲	痲	痲	痲

二二 一〇 八 二 七七 二七〇 四 二〇 二八 四 一九 五 二 一 二 二 三 六 一 一 一 三

〇一六 一・三一 〇一〇 〇〇三 一・〇〇 三・五一 〇〇五 〇二六 〇三六 〇〇五 〇二五 〇〇六 〇〇三 〇〇一 〇〇三 〇〇三 〇〇四 〇〇八 〇一八 〇〇一 〇〇一 〇〇四 〇〇四

〇四四 三・六七 〇二九 〇〇七 二・八〇 九・八二 〇一五 〇七三 一〇二 〇一五 〇六九 〇一八 〇〇七 〇〇四 〇〇七 〇〇七 〇一 〇二二 〇五一 〇〇四 〇〇四 〇〇四 〇一

七〇 二七 七七 一三 三三 一〇 五七 四四 九九 五九 八六 一二 一四 二二 一一 八二 六六 一四 一四 一四 一〇

VII																						
122	131	泌尿、生殖器の疾患	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101
膀胱炎	腎臓炎	水腫	腹膜炎	其の他の疾患	腹膜炎	肝臓肥	肝臓硬	肝臓化	脾臓疝	鼠蹊ヘルニア	盲腸炎	胃腸炎	急性腸炎	腸炎	其の他の胃腸疾患	胃潰瘍	胃擴張	消化不良	胃加答	扁桃腺炎	咽頭炎	

一 二 四三 二五 二二 四五四 一五 二六 一七 一六 四四 一 三一 二二五 一五三 一六七 七九 二

〇〇一 〇一四 〇五六 〇三三 〇二七 〇〇六 五九〇 〇〇一 〇〇六 〇三四 〇二二 〇〇八 〇〇一 〇五七 〇四〇 二七九 〇〇一 〇六九 〇〇八 二二七 一〇三 〇〇三

〇〇四 〇三八 一五六 〇九一 〇七六 〇一八 一六五〇 〇〇四 〇一八 〇九五 〇六二 〇二二 〇〇四 一六〇 〇〇四 一〇四 七八二 〇〇四 一九三 〇二二 六〇七 二八七 〇〇七

一六二 七一 五〇 五六 九〇 一六二 八九 四八 六一 八四 一六〇 四〇 一五九 四二 一八 一五八 三六 八三 二二 三一 二九

VI														V								
100	99	98	消	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	呼吸器の疾患	81	80
口腔炎	耳下腺炎	顎下腺炎	消化器の疾患	呼吸器の疾患	其の他の疾患	感冒	肺炎	肺氣腫	肋膜炎	肺炎	氣管支肺炎	毛細氣管支炎	慢性氣管支炎	急性氣管支炎	喉頭炎	鞍鼻	鼻疾	上顎齶	鼻加答	肺	肺血管腫	肺

一七 三 一、二七一 九一 一八八 五二 二 一八八 二二 四六 八 一 八一 九七九 七一 一 二 一 五 二六〇 一

〇〇一 〇〇九 〇〇四 一五二 一〇一 二四四 〇六八 〇〇三 二四四 〇二七 〇六〇 〇一〇 〇〇二 一〇五 二二七 〇九二 〇〇一 〇〇三 〇〇一 〇〇六 二二五 三三八 〇〇一

〇〇四 〇二五 〇一 四二五九 三三三 六八四 一八九 〇〇七 六八四 〇七六 一六七 〇二九 〇〇四 二九五 三五六一 二五八 〇〇四 〇〇七 〇〇四 〇一八 六三二八 九四六 〇〇四

一五七 八一 一三 二八 二二 二二 三五 三八 七八 一五六 三〇 五 三三 一五五 一二七 一五四 八八 一五 一五三

167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145
傳染性皮膚病	粉疹	マツ	蟹足腫	潰瘍	股腺腫	織維狀片	天疱瘡	膿疱	膿疱	下腿潰	皰瘡	頑癬	匍行	汗疹	濕疹	癩病	脫髮	白髮	疥癬	疥癬	疥癬	疥癬

一〇五 一六五 六四 一四 二八 二二 二二 一四 六五 一七 四六 五三 一一 二二 一、二四八 一 三三 二七 三五 三五

一・三〇 〇・〇六 二・二四 〇・〇八 〇・〇五 〇・〇一 〇・〇五 〇・〇三 〇・〇三 〇・二九 〇・一八 〇・八四 〇・二二 〇・六〇 〇・〇六 〇・〇四 〇・〇一 二・七五 一・四九 〇・〇一 〇・四二 三・五二 四・五六

〇・三六 〇・一八 六・〇〇 〇・二二 〇・一五 〇・〇四 〇・一五 一・〇二 〇・〇七 〇・八〇 〇・五一 二・三六 〇・六二 一・六七 〇・一八 〇・一一 〇・〇四 七・七一 四・七三 〇・〇四 一・一六 九・八六 一二・七七

七二 九三 二四 八五 一〇四 一七八 一〇三 四五 二二三 五二 六七 三五 六二 三九 九二 一五 一七七 二〇 一七六 四一 二二 一〇

VIII

144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	皮膚及皮下組織の疾患	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123
足趾瘡	頸部膿腫	頸部膿腫	蜂刺	背部フルンゲル	頂部フルンゲル	瘰癧	兩前膊膿瘡	水痘	水痘	疥癬	婦人生殖器の疾患	子宮病	子宮筋腫	慢性子宮内膜炎	男子泌尿器の疾患	乳房潰瘍	乳房炎	睪丸ヘルニア	陰莖ヘルニア	陰莖水腫	血尿	

一 一 二 一 三 四 二 四 一 一 一 二七 三 九 八 一 一 二 一 一 一 一 五 一

〇・〇一 〇・〇一 〇・〇一 〇・〇三 〇・〇一 〇・〇四 〇・〇五 〇・〇三 〇・〇五 〇・〇一 〇・〇一 三五・二三 〇・一二 〇・一〇 〇・〇一 〇・〇一 〇・〇三 〇・〇一 〇・〇一 〇・〇一 〇・〇一 〇・〇六 〇・〇一

〇・〇四 〇・〇四 〇・〇四 〇・〇七 〇・〇四 〇・一一 〇・一五 〇・〇七 〇・一五 〇・〇四 〇・〇四 九八・六八 〇・三二 〇・二九 〇・〇四 〇・〇四 〇・〇七 〇・〇四 〇・〇四 〇・〇四 〇・〇四 〇・一八 〇・〇四

一七五 一七四 一七三 一三三 一七二 一〇二 一〇二 一七一 一七〇 一七〇 七四 七九 一六九 一六八 一三〇 一六七 一六六 一六五 一六四 九一 一六三



IX		X												XI						
168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188
非傳染性皮膚病	其の他の皮膚病	骨及運動器の疾患	骨膜炎	下顎骨腫	顎骨腫	掌骨骨腫	關節及骨肥大	關節炎	畸形性關節炎	關節粘液囊腫	其他の關節の疾患	筋麻痺	筋炎	肘腺腫	右足跛行	略	口蓋破	龜裂	内翻	幼兒の疾患
二七四	二七五	四四	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〇・〇六	三・五七	〇・五八	〇・〇五	〇・〇四	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇三	〇・〇六	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇二	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一
〇・一八	九・九七	一・六四	〇・一五	〇・一一	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇一	〇・〇七	〇・〇八	〇・〇四	〇・〇九	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四
九四	一一	一一	一〇五	二六	一七九	一八〇	一八一	一八二	一八三	一八四	一九五	一三四	一八五	八〇	一八六	一一七	一八七	一八八	一〇六	一

第四 地方別三大疾患

XII	
188	189
發育不良	外因に依る疾患
一	一五
〇・〇一	〇・一九
〇・〇四	〇・五五
一八九	一九〇
一九一	一九二
一九三	一九四
一九五	一九六

本島全管としての三大疾患は、既に略説したように、第一位脾腫四五・一%、総疾病の割合、以下同じ、第二位マラリア(九五%)、第三位貧血(八五%)であつた。而して如上三疾患を通計すると總患の六三・一%に上る多数を示した。更に地方別に觀察すると次の如くである。

1 臺北州

本州の第一位は全島平均と同じく脾腫であるが、その比率に逕庭がある。即ち平均の約半数の二五・八%である。第二位は疥癬で其の比率は全島平均第二位マラリアに匹敵して九五%を示し、女に多数を示してゐる。その割合は女は男の四倍に騰つて總患の一割強に當る。而かも疥癬を三位迄とするは本州の外澎湖廳のみである。第三位はマラリアで八九%を占め、全島三位の比率より高い。

而して如上三位までを合算すると四四%である。

2 新竹州

最多は脾腫であるが、その比率は高雄州(一九五%)に亞ぐの低率で二二%である。第三位は本島特殊病甲状腺腫で一〇五%を占め、性別罹患率に不権衡を呈するは既述せしが如くである。而かも本州女は男の約十五倍に達して二二%を占めて第一位脾腫患者の女よりも六三%高い譯である。第三位は濕疹の四八%の低率であつて他州應第三位までにはこの類例が無い。かつ本州三位間の比例は三六五%であつて、最低率である。

3 臺中州

本州の三大疾患を擧ぐれば脾腫、貧血、マラリアの順位で、全島平均と同型を呈するは本州に限りたる現象である。唯二位、三位の交互に相異なるのみである。而して貧血女の比率は第一位脾腫を凌ぎ、第二位としては花蓮港廳に亞ぐの高率である。脾腫の割合は臺北州と同率にして二五八%を示せども、男女の歩合は本州は殆ど近運の間にあるも、臺北州は女甚しく低率を現はし、男の三分一に達せぬのである。

4 臺南州

第一、二位は全島平均と同一であるが、第三位は氣管支炎である、而して本州調査地に於ける疾病は偏在の傾向を取りて其の歩調全く他州應と異つて居る。即ち脾腫は七八八%の過多を示すに反し第三位氣管支炎は一%に達せざる少數である、されども第三位に至る比率を通計するときは、全島中の高率にして九四四%を占むるの病系である。

5 高雄州

第一は脾腫、第二は胃の疾患にして各州應の歸嚮と異なり、第三は常型マラリアである。而して脾腫の百分比は全島の最下位で二〇%に達せず、第二、三位の同比は孰れも一二%内外にして、第三位の斯く高率なるは本州の異彩とする。

6 臺東廳

第一位、第二位は新竹州と同じく脾腫、甲状腺腫の順位にして、第三位は感冒である。感冒を第三位中に包含するは本廳に限られた現象である。

7 花蓮港廳

東海岸兩廳は、大體に於て相似の關係にあるを以て、疾病も亦同型である。即ち上二病は臺東廳と同じく、第三位は急性氣管支炎であつて、臺東廳の感冒に對する疾患であり、而かも呼吸器病である。又第三位に至る疾病比を通算すると、兩廳とも七〇%内外を示して之れまた軒輊を認めないのである。

8 澎湖廳

本廳は離島の關係上、又特異の疾病關係を呈露してゐる。大體に於て全島平均と全く其の傾向を異にし、第一位は臺南州脾腫の高率に亞ぎ六七七%を占むる眼疾患中の視力障礙である。第二位は臺北州と同じく疥癬であり、第三位はこれ又特異を現して喘息である。而して如上三大疾患を合算するときは臺南州に亞ぐの高率八〇%を示してゐる。

本廳に於ける最高疾患視力障礙は住民の六割八分を占め、生産能力に影響する所甚大である。其

の原因たるや衛生觀念の低級なるは勿論なれども、亦季節風の襲來と經濟關係の程度に基因するものなるべし。

〔盲目の觀察〕本廳民は視力の減退を見るばかりでなく、治療を放置する結果盲者の夥多なるを免れない。今本調査の成績に依ると

検査人員	盲	検査人員百中盲の割合
男	一、三九五	二・四
女	一、七八五	四・一
計	三、一八〇	三・四

であるから、住民百人中三四人に該る、かつ盲の原因を見るに悉く疾病である。本廳に盲の多きは著名なる事實に屬す、今第一回國勢調査の成績に徴すると、全島の盲二二二〇九人中八四一人は本廳の盲人で三八%に當る、而かも人口の割合は全島の一五%である。同調査に於ける盲の状態を窺ふに

州	實數	人口千中	順位
全島	二二、二〇九	六・一	八
臺北州	二、三三七	三・二	六
新竹州	二、三三七	四・二	五
臺中州	三、四五六	四・五	五
臺南州	九、〇四九	九・五	二

  

州	實數	人口千中	順位
高雄州	三、七七一	八・〇	三
高雄州	一、九二	五・〇	四
高雄州	二〇六	四・二	七
高雄州	八四一	二四・九	一

であるから、本廳は全島平均の約二倍半、次位にある臺南州の五割強を示してゐる。

臺南州下にて盲の多數と目せられる北門郡、虎尾郡、東石郡に於ける千分比は二一人臺、又北港郡は一人臺である。然るに本廳に於ける平均は一四人臺なるも、白沙庄は一一人臺、本調査地湖西庄は一五人臺の高率である。

次に本廳に於ける盲の實數及び比例を擧ぐれば左表の如くである。

實數	人口千中
全島	八四一
馬公街	二九七
湖西庄	一七一
白沙庄	一七九
白沙庄	一七九
四嶼庄	一〇〇
安庄	九四
人口千中	一九・六
人口千中	一三・〇
人口千中	九・七

地方別三大疾患の實數並に總患の割合を表章するに、次の如くである。

口地方別三大疾患 (實數)

第一位	第二位		第三位
	男	女	
脾腫	リマア	貧血	全島
脾腫	疥癬	リマア	臺北州
脾腫	腺甲狀	濕疹	新竹州
脾腫	貧血	リマア	臺中州
脾腫	リマア	支氣管炎	臺南州
脾腫	胃腸の疾患	リマア	高雄州
脾腫	腺甲狀	感冒	臺東廳
脾腫	腺甲狀	支氣管急性炎	花蓮港廳
視力障礙	疥癬	喘息	澎湖廳

□ 疾病總數百中の割合

第一位	第二位		第三位		全島
	男	女	男	女	
脾腫	リマア	貧血	リマア	貧血	全島
25.3	10.4	8.7	8.5	8.7	臺北州
25.3	10.4	8.7	8.5	8.7	新竹州
25.3	10.4	8.7	8.5	8.7	臺中州
25.3	10.4	8.7	8.5	8.7	臺南州
25.3	10.4	8.7	8.5	8.7	高雄州
25.3	10.4	8.7	8.5	8.7	臺東廳
25.3	10.4	8.7	8.5	8.7	花蓮港廳
25.3	10.4	8.7	8.5	8.7	澎湖廳

第五 寄生蟲

不健康地特に農村に寄生蟲卵保有者の多きことは、諸家の報告に據りて明なるところである。我が保健調査に在りても寄生蟲分布の情勢を探究すべく、身體検査當日に於て、糞に手交して置いた一定の容器に糞便を採取せしめ、各自に之を携行せしめたのである。之を可及的速に本検鏡所に於て、單純塗抹標本又は遠心沈澱法(集卵法)を併用して、仔細に検索を行つたのである。

本成績は、各州にありては第一回乃至第五回、廳のありては臺東、花蓮港の兩廳は第二回及び第二回、澎湖廳は唯一回分のみである。而かも本期間の調査地區は凡て各管内に於ける衛生状態の不

良部落に屬するのであるから、従つて本病も比較的高率を呈するものと思ふ。

一 寄生蟲保卵率

本調査編整に於ける糞便検査人員は七四、一〇三人にして、男女の權衡は男一〇〇に對し、女一〇一で一般常型に反したる女多の地區である、即ち男三六、九三〇人、女は三七、一七三人である。而して寄生蟲卵を保有する者は五八、〇四二人であるから、其の保卵率(人口千につきは七八三人である。つまり調査地居住民の約八割は何等かの寄生蟲を保有する割合を示すのである。

1 州廳別保卵率

寄生蟲の分布を州廳別に觀察を下すに、一樣でなく著差あることが認めらるゝ、最多は澎湖廳の九六・五%であるから、全島平均に比し約二割即ち一八・二%高い、高雄州は六一・二%で最低位を占めてゐる、之を最多澎湖廳と比較すると三五・三%の大差がある、臺北州は約平均位を呈示してゐる。而して全島平均位より低率なるは新竹、臺南、高雄の三州である、斯の如く寄生蟲分布には地理的影響の著明なることが窺はれる。

其の詳細を表示すると、次の如くである。

□ 州廳別寄生蟲保卵率の順位

州廳	率(%)	前州廳との較差
1 澎湖廳	九六・五	—
2 臺中州	九五・九	〇・六
3 臺東廳	八七・一	八・八
4 花蓮港廳	八〇・〇	七・一
5 臺北州	七九・六	〇・四
全島	七八・三	—
6 新竹州	七三・四	四・九
7 臺南州	七二・一	一・三
8 高雄州	六一・二	一〇・九